

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時にスタッフで理念を作り上げた。スタッフには入職時に理念と意味を説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング時に復唱しスタッフに理念を浸透させている。ケアプランや日々支援に関しては理念を基に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に家族に理念についての説明を行ない、玄関のわかりやすい所に理念を掲示している。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事等積極的に参加し散歩時には挨拶を行っている。又地域の方にもホームの行事案内を行っている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入し地域の行事に積極的に参加している。	○	自治会の清掃活動にも参加できるよう検討していきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	夏休みには、中学生の職場体験を受け入れ、高齢者や介護の現場に触れる機会になっている。	○	介護教室の開催や地域の交流の場の提供などを検討していきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員にて自己評価を実施し管理者によってまとめている。事業所としてやそれぞれ自分自身を振り返ることができた。	○	外部評価の結果を全職員で共有し改善に向け検討、実践していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村の職員の方へ相談しアドバイスを頂いたり、地域代表の方からは行事の案内を頂き地域参加につなげている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネ連絡会、事業所連絡会に毎回参加し研修や相談の場を設けている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修には管理者だけでなく職員も受講している。家族の方にはパンフレットを面会簿と一緒に置きいつでも閲覧できるようにしている。現在のところ制度の必要な方はなく活用の実績はない。	○	地域権利擁護事業の研修に参加し理解を深めたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持つことは出来なかったが、言葉使いや対応はお互いにスタッフ間で注意しあうようにしている。	○	虐待防止について学ぶ機会を持つ。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、本人、家族の意向を踏まえ十分な説明を行なっている。その後も気軽に尋ねて頂けるよう声掛けをおこなっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも毎回別の入居者が参加し 意見を頂いている。個人の意見、不満が あった際は管理者へ報告し対応を検討して いる。定期的に相談員に訪問して頂いてい る。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	受診後は看護師、管理者より家族に報告し ている。毎月の利用料支払いは来所してい ただきその時に近況を報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記しており契約時に苦 情受付の窓口の説明を行なっている。運営 推進会議も毎回別の家族に参加してもらっ たり、年2回の家族会開催にて様々な意見 が聞けるようにしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	ロッカールームには意見箱を設けている。 又、親睦会などを行い気軽に意見を出せる 雰囲気を作っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や外出の実施時などはスタッフの人員 を増やしたり、突発的な時もスタッフの勤 務調整はスムーズに行えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他の部署への異動の事例は無く、馴染みの 職員による支援を行っている。やむをえず 離職し担当スタッフが変更の場合は、管理 者や在職中のスタッフにてフォローし安心 した生活が継続できるよう配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別に関係なく職員の採用をおこなっている。様々な年代の職員がいることで幅広い意見が聞けている。また、それぞれに行事企画、料理、室内装飾など職員の能力を活かし働いてもらっている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、人権啓発研修に参加しておりミーティング時に報告しスタッフ間で共有している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を提供し積極的な受講を呼びかけている。勤務日程の調節など資格取得時には配慮している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内でのケアマネ研修への参加や他の事業所との食事会の機会を設け相談、交流を図っている。	○	職員が他事業所を訪問し自事業所を見つめ直す機会を作っていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人員等問題が無ければ有休が自由に取れるように配慮している。職員に対して宿泊、レジャー、映画の割引カードを配布し余暇の充実に努めている。法人全体での歓迎会、忘年会や事業所での食事会を開催している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回自己評価及び上司による評価を行い、自身を見つめ直す機会としている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、見学は常時受け付けている。入所前には本人、家族と直接面談する機会を設けている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、見学は常時受け付けている。入所前には本人、家族と直接面談する機会を設けている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人で相談に見えた場合は他の在宅サービスや、施設サービスの案内も行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からの情報を基に他の入居者やホームの雰囲気に馴染めるように支援している。特に入所直後は状態や状況を家族に報告、相談している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	室内の装飾は保育士だった入居者の方と一緒にいきアドバイスを受けている。入居者の方もレイアウトを考えたり、スタッフに指示したりしてイキイキとされている。また手伝って頂いた時は必ずお礼を言うようにスタッフで統一している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会が少ない家族に対しては外出や面会の相談や電話での近況報告を行っている。面会時にはスタッフから気軽に声を掛け来所して頂きやすい雰囲気づくりに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会が少ない家族に対しては近況報告を含めた電話連絡を行い、面会をお願いしている。それによって本人の表情も明るく穏やかになった。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、先祖への墓参りや、自宅近くの神社への参拝に出かけている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	食事は気の合う方と同じテーブルで摂れるように座席に配慮している。居室にて他入居者の方と談話されるときはお茶や椅子を準備しゆっくりと過ごせるように支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所者にも行事の案内を行っている。入院による退所の方には見舞いに行き本人や家族の状況把握に努めている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のスタッフとのコミュニケーションで得た情報を基にセンター方式を用いケアプランを作成している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談や他事業所からの情報提供により把握に努めている。入所後はコミュニケーションを図りながらセンター方式の活用により把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕の申し送りを行い、状態変化のある方に対しては前日等の状況を含め報告している。休日明けのスタッフも業務日誌での確認を徹底している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の要望を聞き、スタッフ間にて月1回モニタリング実施し意見をプランに反映させている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回及び必要時にモニタリングを行いプランの見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表に毎日の様子やプラン実施の状況を記録しモニタリング時に活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望や必要に応じ受診、買い物の付き添いを行っている。透析中の入居者には家族希望時送迎を行っている。		
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の相談員の方の訪問が定期的であり入所前の情報等を頂いている。	○	ボランティアの呼びかけを行いホームの事を知って頂く機会にしたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ歯科医院と連携し往診を依頼している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより紹介で入所された方もおられ相互に訪問し情報提供を頂いた。	○	地域包括支援センターの役割を再確認し困難事例の相談・助言や権利擁護事業の研修などの開催を依頼していきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回定期的な回診にてかかりつけ医との連携を保ち又病状変化時には、家族への連絡を密にしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在は認知症専門医への受診者は居ないが、必要時には回診時に医師へ種々相談し専門医受診を行う。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日バイタルチェックし異常の早期発見に努めている。看護師とは24時間連絡がとれる体制であり受診や対応の指示を仰いでいる。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医と連携し連絡を密にしたり、又病院訪問し、病状把握に努めている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	往診時に医師へ病状報告を行っている。家族を含めた話し合いの場を持ち本人が安心して過ごせるよう支援出来ている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで出来ることは何かを考え、その人が人間らしく自然に暮らせるようスタッフ一同病状に合わせケアを行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所と情報の共有に努め必要に応じ書類の提出を依頼している。スタッフにも情報開示し対応方法などを事前に検討している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等にて入居者の状態や性格・対応・声かけに対する反応等細かい事まで伝達できている。又居室やトイレへの入室の際はノックし声かけを行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言語不明瞭な入居者や難聴の入居者には筆談にてコミュニケーションを行っている。又そのコミュニケーションから引き出されたことをケアプランに取り入れている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間から就寝時間等決まりもなく、入浴も可能限り本人の希望に沿って実施している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	スタッフと1対1で外出し本人が希望する店で好みの洋服等を購入できるようにしている。ホームでの髪染めを希望される方はスタッフにて行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、スタッフが庭で栽培した野菜を使った料理を作っている。又個々の能力や生活暦に合わせ茶碗拭きや味など役割を持ち生活している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事の時希望される方には、お酒を楽しんで頂いている。個人的に希望される時は一緒に買い物に行っている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用により排泄パターンや排便状況を把握している。入所時オムツ使用の方でも立位が可能であれば、オムツ除去しトイレ誘導を行っている。現在オムツ使用者なし。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日本人が希望する時入浴出来る体制です。拒否ある方には時間やスタッフを換え入浴して頂いている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分で使っていた寝具を持ってきてもらい安心して休んで頂いている。午睡の習慣がある方には、本人の希望に合わせて休んで頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の裁縫をケアプランに取り入れ毎日本人の意思を確認しながら作品作りに取り組み、町の文化祭に出展・見学を実施している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の入居者はお金を所持しており、外出や買い物時は自由にお金が使えよう支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には日常的に散歩を実施し、それ以外も希望時には散歩・買い物に出かけている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生月に1日本人が希望する場所へ出掛ける機会を設けている。又季節に応じた花見物や地域の行事(祭り・文化祭・グランドゴルフ等)に出掛けている。	○	スタッフや他入居者とだけでなく、家族と共に出掛ける機会を設けて行きたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族には、手紙書きや投函を一緒に行っている。又家族への定期的な電話連絡を依頼し本人も大変喜んで頂いている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	スタッフ全員が気持ちの良い挨拶で出迎え、お茶・お菓子を提供している。時には記念写真を撮り面会者・本人に喜んで頂いている。又食事時は一緒に食べて頂ける様居室やホールに食事をセッティングしている。	○	家族に限らず、知人・友人等の面会の際は、今後も来所しやすい様に行事の案内を行って行きたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、全スタッフに周知している。常に入居者本位での支援を行い現在の所、拘束事例はない。スタッフも研修参加し知識の習得に努めている。	○	今後も順次、スタッフが研修に参加する機会を設けていきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホールにはスタッフが必ず居り、入居者の所在を把握している。外気浴等自由に外に出られる環境である。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通し入居者に行動を記録し所在を確認している。夜間は1時間毎の巡視を行い、希望者は訪室せず小窓より確認を行ないプライバシーの保護に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人で所持している針・ハサミ等あり毎日確認を行なっている。洗剤等に関しては、入居者の手の届かない所に保管し事故防止に努めている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのマニュアルを作成している。3者での確認を行ない、誤薬防止に努めている。歩行状態の変化時は、申し送りを行い付き添い・一部介助を行っている。	○	行方不明の方が出た場合、写真付きの情報をまとめた書類を準備していきたい。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアル作成・消防署の応急手当・心肺蘇生法の講習を受け発生時に備えている。分からない事は、その都度看護師に尋ねている。	○	今後も講習を定期的を受け、再確認する機会をもっていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署指導の避難訓練にて、初期消火・通報・避難誘導を入居者と共に行っている。又地域の消防団の方を行事に招待し協力を働きかけている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や近況報告時にリスクについての説明を行なっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い異常の早期発見に努めている。毎朝のミーティングで変化等スタッフから報告を受け対応の変化があった場合は、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を個人ファイルにとじ、内容を把握・確認できるようにしている。処方箋変更の場合は申し送りノートに記載している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、個々の排泄に注意している。便秘時には牛乳や水分を多めにしたり身体を動かしたり入浴時マッサージをしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の能力に合わせ声かけ・一部介助を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量(食事・水分)は毎日記入している。食事・水分量低下時は好みのものを提供し、摂取量の確保に努めている。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	種々のマニュアルを作成している。ミーティング時に勉強会を行い再度確認を行っている。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルに応じ定期的に漂白や洗浄を行っている。冷蔵庫や食器棚は一週間に一回程度整理し、賞味期限の確認に努めている。買い物は毎日実施し、新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺には花や植木を植え、玄関には入居者の作品を飾り、気軽に訪問して頂ける雰囲気作りを行っている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾っている。ホールが南向きであり、カーテン等を用いて光の調節を行っている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやコタツを置き、自由に過ごせる様に工夫している。ひなたぼっこを兼ねて廊下のソファで一人や数名で過ごされる姿も見られる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持参してもらっている。思い出の品物や写真を飾り、自由に居室を使って頂いている。入居者によっては畳を使用される事もある。	○	ベットや筆筒だけでなく、鏡台やカーテン等の持込みも働きかける。
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に温度・湿度のチェック、対応を行っている。居室・ホール共一日一回は窓を開け換気している。トイレについては24時間の換気システムが活用されている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されている。雨天時には廊下を周り体力作りされる方も居られる。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	壁紙の色の境目を入居者の目線より低めにし混乱を防ぐように工夫した造りになっている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム南側には畑があり、種々の野菜を育てている。天気の良い日には自由に中庭に出て日光浴を楽しんだり、昼食を摂ったりしている。	○	クリスマス時期には、中庭にイルミネーションを飾り楽しんで頂く予定である。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
100	—	○職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常的に外出や散歩の機会を設けている。時間の過ごし方や等個人にあった対応を行っている。ケアプランでは本人の望みや意欲を高めるプランの作成に取り組んでいる。又月一回のモニタリングで随時内容の見直しを行っている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設時にスタッフで理念を作り上げた。スタッフには入職時に理念と意味を説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング時に復唱しスタッフに理念を浸透させている。ケアプランや日々の支援に関しては理念を基に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に家族に理念についての説明を行ない、玄関のわかりやすい所に理念を掲示している。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事等積極的に参加し散歩時には挨拶を行っている。又地域の方にもホームの行事案内を行っている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入し地域の行事に積極的に参加している。	○	自治会の清掃活動にも参加できるよう検討していきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	夏休みには、中学生の職場体験を受け入れ、高齢者や介護の現場に触れる機会になっている。	○	介護教室の開催や地域の交流の場の提供などを検討していきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員にて自己評価を実施し管理者によってそれをまとめている。事業所としてやそれぞれ自分自身を振り返る事ができた。	○	外部評価の結果を全職員で共有し改善に向け検討、実践していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村職員の方へ相談しアドバイスを頂いたり、地域の代表の方からは行事の案内を頂き地域参加につなげている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネ連絡会、事業所連絡会に毎回参加し研修や相談の場を設けている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修には管理者だけでなく職員も受講している。家族の方にはパンフレットを面会簿と一緒に置きいつでも閲覧できるようにしている。現在のところ制度の必要な方はなく活用の実績はない。	○	地域の権利擁護事業の研修に参加し理解を深めたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持つことは出来なかったが、言葉使いや対応はお互いにスタッフ間で注意しあうようにしている。	○	虐待防止について学ぶ機会を持つ。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、本人、家族の意向を踏まえ十分な説明を行なっている。その後も気軽に尋ねて頂けるよう声掛けを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも毎回別の入居者が参加し 意見を頂いている。個人の意見、不満が あった際は管理者へ報告し対応を検討して いる。定期的に相談員に訪問して頂いてい る。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	受診後は看護師、管理者より家族に報告し ている。毎月の利用料支払いは来所してい ただきその時に近況を報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記しており契約時に苦 情受付の窓口の説明を行なっている。運営 推進会議も毎回別の家族に参加してもらっ たり、年2回の家族会開催にて様々な意見 が聞けるようにしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	ロッカールームには意見箱を設けている。 又、親睦会などを行い気軽に意見を出せる 雰囲気を作っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や外出の実施などはスタッフの人員を 増やしたり、突発的な時もスタッフの勤務 調整はスムーズに行えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他の部署への異動事例は無く、馴染みの職 員による支援を行っている。やむをえず離 職し担当スタッフが変更の場合は、管理者 や在籍中のスタッフにてフォローし安心し た生活が継続できるよう配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別に関係なく職員の採用を行っている。様々な年代の職員がいることで幅広い意見が聞けている。また、それぞれに行事企画、料理、室内装飾など職員の能力を活かし働いてもらっている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、人権啓発研修に参加しておりミーティング時に報告しスタッフ間で共有している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を提供し積極的な受講を呼びかけている。勤務日程の調節など資格習得時には配慮している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内でのケアマネ研修会への参加や他の事業所との食事会の機会を設け相談、交流を図っている。	○	職員が他事業所を訪問し自事業所を見つめ直す機会を作っていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人員等問題が無ければ有休が自由に取れるように配慮している。職員に対して宿泊、レジャー、映画の割引カードを配布し余暇の充実に努めている。法人全体での歓迎会、忘年会や事業所での食事会を開催している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回自己評価及び上司による評価を行い、自身を見つめ直す機会としている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、見学は常時受け付けている。入所前には本人、家族と直接面談する機会を設けている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、見学は常時受け付けている。入所前には本人、家族と直接面談する機会を設けている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人で相談に見えた場合は他の在宅サービスや、施設サービスの案内も行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からの情報を基に他の入居者やホームの雰囲気に馴染めるように支援している。特に入所直後は状態や状況を家族に報告、相談している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	室内の装飾は保育士だった入居者の方と一緒にいきアドバイスを受けたりしている。入居者の方もレイアウトを考えたり、スタッフに指示したりしてイキイキとされている。また手伝って頂いた時は必ずお礼を言うようにスタッフで統一している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会が少ない家族に対しては外出や面会の相談や電話での近況報告を行なっている。面会時にはスタッフから気軽に声を掛け来所して頂きやすい雰囲気作りに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会が少ない家族に対しては近況報告を含めた電話連絡を行い、面会をお願いしている。それによって本人の表情も明るく穏やかになった。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、先祖への墓参りや、自宅近くの神社への参拝に出かけている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	食事は気の合う方と同じテーブルで摂れるように座席に配慮している。居室や他入居者の方と談話されるときはお茶や椅子を準備しゆっくりと過ごせるように支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所者にも行事の案内を行っている。入院による退所の方には見舞いに行き本人や家族の状況把握に努めている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のスタッフとのコミュニケーションで得た情報を基にセンター方式を用いケアプランを作成している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談や他事業所からの情報提供により把握に努めている。入所後はコミュニケーションを図りながらセンター方式の活用により把握に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕の申し送りを行い、状態変化のある方に対しては前日等の状況を含め報告している。休日明けのスタッフも業務日誌での確認を徹底している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の要望を聞き、スタッフ間にて月1回のモニタリングを実施し意見をプランに反映させている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回及び必要時にモニタリングを行いプランの見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表に毎日の様子やプランの実施状況を記録しモニタリング時に活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望や必要に応じ受診、買い物の付き添いを行っている。透析中の入居者には家族希望時送迎を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の相談員の方の訪問が定期的であり入所前の情報等を頂いている。	○	ボランティアの呼びかけを行いホームの事を知って頂く機会にしたい。



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ歯科医院と連携し往診を依頼している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより紹介で入所された方もおられ相互に訪問し情報提供を頂いた。	○	地域包括支援センターの役割を再確認し困難事例の相談・助言や権利擁護事業の研修などの開催を依頼していきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の定期的な回診にてかかりつけ医と連携を保ち病状変化時には、家族への連絡を密にしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在は認知症専門医への受診者は居ないが、必要時には医師へ種々相談し専門医受診を行う		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日バイタルチェックし異常の早期発見に努めている。看護師とは24時間連絡が取れる体制であり受診や対応の指示を仰いでいる。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医と連携し連絡を密にしたり、又病院訪問し病状把握に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	往診時に医師へ病状報告を行っている。家族を含めた話し合いの場を持ち本人が安心して過ごせるよう支援できている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで出来ることは何かを考え、その人が人間らしく自然に暮らせるようにスタッフ一同病状にあわせケアを行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所との情報の共有に努め必要に応じ書類の提出を依頼している。スタッフにも情報開示し対応方法などを事前に検討している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等にて入居者の状態や性格・対応・声かけに対する反応等細かい事まで伝達できている。又居室やトイレへ入室の際はノックし声かけを行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言語不明瞭な入居者や難聴の入居者には筆談にてコミュニケーションを行っている。又そのコミュニケーションから引き出されたことをケアプランに取り入れている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間から就寝時間など決まりもなく、入浴も可能な限り本人の希望に沿って実施している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	スタッフと1対1で外出し本人が希望する店で好みの洋服等を購入できるようにしている。ホームでの髪染めを希望される方はスタッフにて行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、スタッフが庭で栽培した野菜を使った料理を作っている。又個々の能力や生活暦に合わせ茶碗拭きや味見など役割を持ち生活している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事のとき希望される方には、お酒を楽しんで頂いている。個人的に希望される時は一緒に買い物に行っている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用により排泄パターンや排便状況を把握している。入所時オムツ使用の方でも立位が可能であれば、オムツ除去しトイレ誘導を行っている。現在オムツ使用者なし。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日本人が希望する時入浴できる体制です。拒否ある方には時間やスタッフを換え入浴して頂いている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分で使っていた寝具を持ってきてもらい安心して休んで頂いている。午睡の習慣がある方には、本人の希望に合わせて休んで頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の裁縫をケアプランに取り入れ毎日本人の意思を確認しながら作品作りに取り組み、町の文化祭に出展・見学を実施している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の入居者はお金を所持しており、外出や買い物時は自由にお金が使えるように支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には日常的に散歩を実施し、それ以外も希望時には散歩・買い物に出かけている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日に1日本人が希望する場所へ出かける機会を設けている。又季節に応じた花見物や地域の行事(祭り・文化祭・グランドゴルフ等)に出掛けている。	○	スタッフや他入居者とだけでなく、家族と共に出かける機会を設けていきたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族には、手紙書きや投函を一緒に行っている。又家族への定期的な電話連絡を依頼し本人も大変喜んで頂いている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	スタッフ全員が気持ちの良い挨拶で出迎え、お茶・お菓子を提供している。時には記念写真を撮り面会者・本人に喜んで頂いている。又食事時は一緒に食べて頂けるよう居室やホールに食事をセッティングしている。	○	家族に限らず、知人・友人等の面会の際は今後も来所しやすい様に行事の案内を行っていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル作成を行い、全スタッフに周知している。常に入居者本位での支援を行い、現在の所、拘束事例はない。スタッフも研修参加し知識の習得に努めている。	○	今後も順次、スタッフが研修に参加する機会を設けていきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホールには必ずスタッフが居り、入居者の所在を把握している。外気浴等自由に外に出られる環境である。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通し入居者の行動を記録し所在を確認している。夜間は1時間毎の巡視を行い、希望者は訪室せず小窓より確認を行ないプライバシーの保護に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人で所持している針・ハサミ等あり毎日確認を行なっている。洗剤等に関しては、入居者の手の届かない所に保管し事故防止に努めている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのマニュアルを作成している。三者での確認を行ない誤嚥防止に努めている。歩行状態の変化時は、申し送りを行い付き添い・一部介助を行っている。	○	行方不明の方が出た場合の写真付の情報をまとめた書類を準備していきたい。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアル作成・消防署の応急手当・心肺蘇生法の講習を受け発生時に備えている。分からない事は、その都度看護師に尋ねている。	○	今後も定期的に研修を受け、再確認する機会を持っていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署指導の避難訓練にて、初期消火・通報・避難誘導を入居者と共に行っている。又地域の消防団の方を行事に招待し協力を働きかけている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や近況報告時にリスクについての説明を行なっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い異常の早期発見に努めている。毎朝のミーティングで変化等スタッフから報告を受け対応の変化のあった場合は、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を個人ファイルにとじ、内容を把握・確認できるようにしている。処方箋変更の場合は申し送りノートに記載している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、個々の排泄に注意している。便秘時は牛乳や水分を多めにしたり身体を動かしたり入浴時マッサージをしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の能力に合わせ声かけ・一部介助を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量(食事・水分)は毎日記入している。食事・水分量低下時は好みの物を提供し、摂取量の確保に努めている。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	種々のマニュアルを作成している。ミーティング時に勉強会を行い再度確認を行っている。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルに応じ定期的に漂白や洗浄を行っている。冷蔵庫や食器棚は一週間に一回程度整理し、賞味期限の確認に努めている。買い物は毎日実施し新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺には花や植木を植え、玄関には入居者の作品を飾り、気軽に訪問して頂ける雰囲気作りを行っている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾っている。ホールが南向きであり、カーテン等を用いて光の調節を行っている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやコタツを置き、自由に過ごせる様に工夫している。ひなたぼっこを兼ねて廊下のソファで一人や数名で過ごされる姿も見られる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持参してもらっている。思い出の品物や写真を飾り、自由に居室を使って頂いている。入居者によっては畳を使用される事もある。	○	ベットや筆筒だけでなく、鏡台やカーテン等の持ち込みも働きかける。
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に温度・湿度のチェック、対応を行っている。居室・ホール共一日一回は窓を開け換気している。トイレについては24時間の換気システムが活用されている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されている。雨天時には廊下を周り体力作りされる方も居られる。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	壁紙の色の境目を入居者の目線より低めにし混乱を防ぐように工夫した作りになっている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム南側には畑があり、種々の野菜を育てている。天気の良い日には自由に中庭に出て日光浴を楽しんだり、昼食を摂ったりしている。	○	クリスマス時期には、中庭にイルミネーションを飾り楽しんで頂く予定である。



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果				
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)				
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常的に外出や散歩の機会を設けている。時間の過ごし方等個人にあった対応を行っている。ケアプランでは本人の望みや意欲を高めるプランの作成に取り組んでいる。又月一回のモニタリングで随時内容の見直しを行っている。